

祝言の舞

三番叟

13時 野村裕基 17時 野村萬齋

びわ湖ホール25周年を寿ぎ
晴れやかな演目をお贈りします。

野村万作・野村萬齋 狂言公演



2024年
3.20 (水祝)

13:00開演 (12:30開場 14:50終演予定)
17:00開演 (16:30開場 18:50終演予定)

滋賀県立芸術劇場
びわ湖ホール 中ホール

S席6,600円(6,050円) A席5,500円(4,950円)
青少年(24歳以下)3,300円 シアターメイツ1,650円
[全席指定・税込] ※()内は友の会会員料金。

◎一般発売 11月26日(日)10:00～
◎友の会優先発売 11月24日(金)10:00～
(インターネット、電話受付のみ)

[チケット取扱い・問い合わせ]

- びわ湖ホールチケットセンター
TEL.077-523-7136
10:00～19:00火曜日休館、休日の場合は翌日。
12/29～1/3は休館。ただし、チケットセンターは
12/30は電話受付のみ、12/31は10:00～17:30営業。
インターネット受付
<https://www.biwako-hall.or.jp/>
- チケットぴあ <https://t.pia.jp/>
(Pコード 518-332)
- ローソンチケット <https://l-tike.com/>
(Lコード 56496)
- e+ (イープラス) <https://eplus.jp/>

主催:滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
後援:滋賀県教育委員会

末広がり

13時 17時 野村万作



撮影:政川慎治

びわ湖ホールオフィシャルスポンサー



叶匠壽庵



木の家専門店

野村万作・野村萬齋狂言公演

解説 野村 萬齋 <13時>
高野 和憲 <17時>

三番叟

能楽の儀礼曲「翁」の中で、狂言師の勤める役が「三番叟」です。常の能とも狂言とも違う、古風な様式を多く留めた神聖な曲とされ、現在でも、正月の初会や舞台披露、特別な記念の催しなどで演じられます。まず前段の「採之段」は、舞手自ら掛け声を発する力強い舞です。大鼓の勇打が軽快な打ち出しとともに動き始め、場に「喜びありや」と陽気を与え、大地を踏みしめ、邪気を払い、畦道を作り、クライマックスの「鳥跳び」という跳躍を頂点に躍動的に舞います。その後、「黒式尉」の面を着け、千歳との問答をはさんで後段の「鈴之段」を荘重に舞い始めます。鈴を手に、始めはゆっくりとしたテンポで足拍子を踏み、種まきのような所作を交えて舞いますが、鈴の音と囃子の演奏の響き合いとともに徐々にテンポが速まって行き、やがて最高潮に達します。三番叟の舞は足拍子が多いため、「踏む」という表現も使われます。足拍子は大地を踏み固める所作に通じるため、天下泰平を祈る翁の舞に対し、三番叟は五穀豊穡を寿ぐ舞と考えられています。まさに日本芸能の真髄というに相応しい、格式とダイナミックな躍動感を合わせ持つ舞です。

末広がり

果報者が来客に末広がり(扇)を贈ろうと、太郎冠者に命じて都へ買いに行かせる。ところが末広がりは何のことも知らないうちに太郎冠者。声を掛けてきた男の巧みな言葉に、古傘を末広がりとして信じ込んでしまう。大喜びで古傘を買い求めた太郎冠者は早速屋敷に持ち帰ると、果報者に見せるのだが、縁起物の末広かりを題材とする、祝賀的な狂言の代表曲です。高揚する囃子物とともに晴れやかな結末へ向かう、和楽の世界をお楽しみください。

《17時》	《13時》
三番叟 野村 萬齋 千歳 内藤 連	三番叟 野村 裕基 千歳 飯田 豪
小鼓頭取 成田 達志 脇鼓 成田 奏 脇鼓 林 大和 太鼓 山本 寿弥 後見 深田 博治 月崎 晴夫	小鼓頭取 成田 達志 脇鼓 成田 奏 脇鼓 林 大和 太鼓 山本 寿弥 後見 深田 博治 月崎 晴夫
地謡 石田 幸雄 高野 和憲 野村 裕基 飯田 豪 金澤 桂舟	地謡 野村 萬齋 石田 幸雄 高野 和憲 内藤 連 金澤 桂舟

《17時》	《13時》
果報者 野村 万作 太郎冠者 野村 萬齋 すっぱ 石田 幸雄	果報者 野村 万作 太郎冠者 野村 萬齋 すっぱ 石田 幸雄
笛 齊藤 敦 小鼓 成田 奏 大鼓 山本 寿弥 太鼓 加藤 洋輝 後見 内藤 連	笛 齊藤 敦 小鼓 成田 奏 大鼓 山本 寿弥 太鼓 加藤 洋輝 後見 内藤 連

《17時》	《13時》
果報者 野村 万作 太郎冠者 野村 裕基 すっぱ 深田 博治	果報者 野村 万作 太郎冠者 野村 裕基 すっぱ 深田 博治
笛 齊藤 敦 小鼓 成田 奏 大鼓 山本 寿弥 太鼓 加藤 洋輝 後見 飯田 豪	笛 齊藤 敦 小鼓 成田 奏 大鼓 山本 寿弥 太鼓 加藤 洋輝 後見 飯田 豪

野村万作 のむらまんざく



1931年生。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)。文化功労者、日本芸術院会員。祖父・故六世野村万齋及び父・故初世野村万齋に師事。早稲田大学文学部卒業。万作の会主宰。軽妙洒脱かつ繊密な表現のなかに深い情感を湛える、品格ある芸は、狂言の一つの頂点を感じさせる。国内外で狂言普及に貢献。ハワイ・大シントン大では各員教授を務める。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲「釣狐」に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞。その他、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾至能賞、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、長谷川伸賞、旭日小綬章、中日文化賞、ニューヨーク・ジャパソサエティ賞等、多数の受賞歴を持つ。月に憑かれたヒエロ、「子午線」の祀り、「秋江」法螺待、「敦」山月記・名人伝、「等、狂言師として新たな試みにもしばしば取り組み、現在に至る狂言隆盛の礎を築く。近年では、「稲山節歌」の再演に取り組み、大きな成果をあげている。「狂言を生きる」朝日出版社を刊行。

野村萬齋 のむらまんざい



1966年生。祖父・故六世野村万齋及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言」さるる乃座主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台「敦」山月記「名人伝」盗人「子午線」の祀り「能狂言鬼滅の刃」ハムレットなど古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通じ狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞、千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞、松尾至能賞大賞等を受賞。石川県立音楽堂邦楽監督、東京藝術大学客員教授(公社)全国公立文化施設協会会長。びわ湖ホールで上演のオペラ「こうもり」の初演出演が好評を博す。

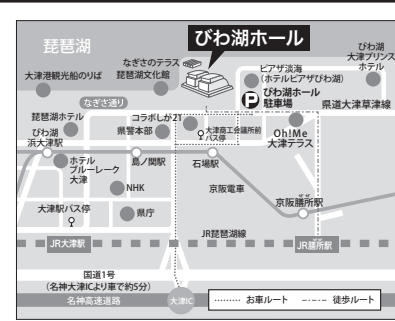
野村裕基 のむらゆうき



1999年生。野村萬齋の長男。祖父・野村万作及び父に師事。慶応義塾大学法学部卒業。能楽協会会員。3歳の時に「朝猿」で初舞台、子方として国内外で多数の舞台に出演。修業を続け、「三番叟」奈須与市語で「釣狐」を抜き、「万作の会」の若手狂言師の一人として舞台を勤めている。2023年3月には世田谷パブリックシアター「ハムレット」でタイトルロールを演じ、活動の場を広げている。

シアターメイツ会員募集 入会金・年会費無料
6歳以上18歳以下の方ならどなたでも入会できます。
優待対象公演を青少年料金の約半額でご覧いただけるなど、特典がいっぱい! 詳しくはびわ湖ホールのホームページをご覧ください。
<https://www.biwako-hall.or.jp/>

【ご来場される方へのお願い】
※6歳以上のお子様からご入場いただけます。5歳以下のお子様は託児サービスをご利用ください。(右記参照) ※シアターメイツチケットはチケットセンター(電話・窓口)のみの取り扱いです。※やむを得ない事情により、公演内容等が変更になる場合があります。※友の会料金のチケットはびわ湖ホールでのみ取り扱いです。また、友の会優先発売期間中に窓口販売はございません。※チケットお申し込み後、期限内に所定の手続きをされなかった場合は、チケットの販売・引き渡しをお断りいたします。※テレコイル機能のついた補聴器や人工内耳を使用されている方は、テレコイルモードに切り替えるとヒアリンググループを使用した音声をお楽しみいただけます。※発熱・体調不良の方は、来館をお控えください。



【びわ湖ホールへの交通のご案内】
●JR琵琶湖線(東海道本線)「大津」駅より徒歩約20分。または「大津湖線」約5分(大津湖線はJR東海大津線より徒歩約4分)
●JR琵琶湖線(東海道本線)「福原」駅より徒歩約15分。または京阪電車のカサ「石碓」駅より徒歩約3分

託児サービスのご案内
■対象 / 1歳以上、5歳以下
■利用料金 / 1公演お子さまひとりにつき1,000円
■開設時間 / 各公演の開演30分前～公演終了後30分まで
■申込方法 / 3月13日(水)までにびわ湖ホールチケットセンター(TEL.077-523-7136)までお申込ください。

滋賀県立芸術劇場
びわ湖ホール
〒520-0806 滋賀県大津市打出浜15番1号
TEL.077-523-7133(代)
<https://www.biwako-hall.or.jp/>